

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/花、森)

事業所番号	2770302038		
法人名	株式会社 カームネスライフ		
事業所名	ここから高宮		
所在地	大阪府寝屋川市高宮1丁目15-22		
自己評価作成日	令和3年4月10日	評価結果市町村受理日	令和3年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティビティライフ・クラブナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歴史のある集落の中に立ち、伝統の行事が続く地域で、周囲は季節を見、感じていただける田園が広がる環境にあります。年数を重ねることで、地域の方に、助けていただける場面も増え、地域の伝統行事など積極的に参加させていただき、自治会の方々にも運営推進会議にも出席いただけています。災害時の協力も相互で声を掛け合える関係を築けています。又ボランティアの方の協力で、菜園・園芸など、四季の収穫も楽しんでいただけます。行事のお手伝いや理美容もボランティアとして協力頂いています。10年あまり勤務後の退職後も続いて居ますが入職者も資格取得出来ています。入居者の方の入れ替わりもあり、年齢や介護度の差が大きく、必要な援助が多様になってきました。又昨年よりの新型コロナウイルス感染症の影響で、ボランティアや推進会議など中止。今は 感染を持ち込まない、蔓延を防ぐことを第一に職員全員気を付け、入居者の生活を少しでも楽しんで頂く事と思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人グループの一つで平成17年に設立したグループホームであり、落ち着いた雰囲気の中で田園が広がり古民家が多く、のどかな風景のなかに位置している。建物は2ユニットの平屋作りで庭が広く菜園もあり、ボランティアの人たちと協力しながら種まきから水やり・収穫と取れたての野菜を食事のメニューに加えたり、達成感を感じながら過ごしている。コロナ禍の中でも広い庭があるので、いつでも日光浴や外気浴を楽しんでいる。リビングにキーボードがあり職員が弾いて、みんなで一緒に歌いながら楽しい時間を過ごしている。常に入居者の安全と職員も一緒に楽しく過ごせる施設を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を掲げ職員全員の思いとし、新入職研修の項目にも上げ職員全員が見える場所に掲げ、介護にあたっています。	法人理念と運営方針を玄関と各フロアーの入り口に掲げて、ホーム目的の「認知症高齢者が尊厳ある普通の暮らしが送れるよう生活支援を行う」を常に確認しながら実践している。新入職研修の項目にあげ理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事への参加、日常的に行なっている散歩、施設内での行事への呼びかけ、日頃の世間話又駐車場の使用、遊び場としても交流を深める一環として、提供しています。昨年よりコロナの為交流は控えています。	コロナ禍での地域との関わりは難しく、少人数で人気のない時間を見計らって近くのお宮へ散歩している。その途中で地域の人々とあいさつを交わしている。今までは、ボランティアの受け入れや神社の行事に招待されていたが、今は菜園の手入れをボランティアの方をお願いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講習会、施設内行事など、来演して頂く機会を設け、又ボランティアなども依頼し生活の場としての施設を見ていただけるよう呼びかけると共に、近隣の方が困られた時は気軽に相談、援助もさせていただいています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度関係者の方に集まっていたいただき、報告、取り組み状況をお話し、ご意見を頂き実践していけるようにしていますが、昨年度から行こな得ていません。	今までは、2カ月に1回、自治会・包括支援センター・介護見識のかた・家族の参加で運営推進会議を開催していたが、コロナ禍のために開催できないことを知らせ、行事のお知らせや入居者の人数・家族からの要望・意見を聞いて、半年に一度書面にて各関係者や家族に送付している。	コロナ禍以前は、2カ月に1回開催していたがコロナ禍の中でも2カ月に1回、家族からのアンケートを取ったり、自治会や包括支援センターの意見要望を聞き書面開催を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	寝屋川市のネットワーク会議などにも出席し、市の催し物、勉強会への参加又、空室や、介護度の変化によるサービスの変更などの相談も行なっています。昨年度実績はありません。	行政の窓口が高齢介護室で、必要に応じて相談・情報交換を行っている。提出書類は、書面で対応している。コロナ禍のために市のネットワーク会議や催し物や勉強会の参加が出来ない状態です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の講習、毎日の申し送りでの、確認・徹底に取り組んでいます。ご家族にも拘束の説明をし職員と共に確認を行なう様にしています。門扉は施錠していますがユニット間敷地内は解放していましたが、昨年よりユニット間は閉鎖中	身体拘束を行わない指針文書があり、委員会が3ヶ月に1回、職員研修を年2回実施している。毎日の申し送りで自分の言葉がスピーチロックになっていないか職員同士が互いに注意しあっている。コロナ禍のために2つのユニット間の扉は閉鎖している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々申し送り、カンファレンス、講習資料などで、虐待について話し合い、異常のチェック、確認をしています。人によりあざが出来やすい方には図を描き観察をしています。虐待拘束委の施設内研修を定期的に行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会などにも参加し、制度についても伝達講習で、職員に知ってもらい、ご希望時には対応できるよう 事業所の所在も確認しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間をかけ説明し、改定事項は推進会議や書面で説明しています。解約時も説明、質問の機会が持てるよう、連絡をしています。重度化、入院時の費用などについてもその都度お話をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時ご意見を伺えるよう職員全員で、日々対応しています。又推進会議の要望など地域の方にも公表し、改善できるところは反映しております。又ご意見箱の設置しております。	面会時や外来診療後に家族から意見や要望を聞いている。コロナ禍の中で面会の希望があり、玄関先で間隔をあげ短時間・マスク着用で行い喜ばれた。家族から職員の顔と名前が一致しないとの要望があり、顔写真を掲示して信頼関係を深めた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の会議が毎週あり、月1度の職員会議上で報告し、職員の意見も聞けるようにしています。時間は問わず意見を聞く姿勢でおります。昨年よりリモート会議となり職員会議も短時間を心がけています。	月1回のスタッフ会議と年2回の個人面談があり、職員の意見を聞く機会がある。職員は研修・メンテナンス・給食担当があり、それぞれが関わり日々仕事の開始時間や人員の配置・施設の使い方など職員同士が意見を述べる機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の勤務形態を把握し、長く働ける勤務状況を作るよう努力しています。又資格習得などのアドバイスも職員全員の向上心を持てるよう、給与面でも考慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部外部の研修は積極的に勧め、様々な場面での介護技術を実際に教えあうことを促し、施設全員が同じケアが出来る様に努力しています。又毎朝のミーティングで気づきを共有できるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループ内での意見交換、市内でのネットワークに参加、見学、講習、研修の機会をつづけています。昨年度は行っていません。前年には認知症フォーラム参加、啓もう活動の動画にも協力しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご家族、ご本人と面談しお話を聞く機会を持つことを心がけ、他のサービスも説明しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族、ご本人と面談しお話を聞く機会を持つことを心がけ、他のサービスの利用も説明しています。又体験入居での傾聴により信頼と安心をもっていただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方々に適切と思われるサービスの提案が出来るよう、介護力、介護度など将来の予測も踏まえ説明しています又契約にいたらなかった方にも、受けられるサービスなどお話し、その後も相談を受ける事を説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中の掃除・洗濯・調理又食事中の会話の中で各人の出来ことを見つけ、助け合う関係を、職員や入居者同士でも持てるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中での変化、受診時の結果を訪問時、又は電話などでお知らせし、家族様を交え職員と会話を持ち、ご本人の思いがご家族に伝えられるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了解の下、訪問、外出または電話など支援に努めています。又ご本人の会いたい、行きたいの思いが叶うようご家族と相談 支援しています。現在園庭での面会、電話の対応をしています。	日常的に利用者との会話と今までの生活の延長として、利用者が居心地の良い継続が出来るよう支援している。コロナ禍の中、友達・兄弟の訪問も難しく、短時間の面会と電話の対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や片付け又書道や手作業を通しお互いに助けあい、声かけなど出来るような環境作り、支援に努めています。居室の訪問などもして頂いています。最近は庭の散歩など 並んでされています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の方のケアプラン、情報の提供をし、ご家族よりのご相談、問い合わせにもお答えしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりにより生活全般の思いを発して頂けるような関係を持つことを心がけ、個々の思いを汲み取れるように、また全職員からのきずきからご希望など引き出せるように勤めています。	介護記録を活用して家族から昔の思い出や仕事・趣味などの思いをくみ取り、どのような希望で何をしたいのか、どのように暮らしたいかをくみ取っている。日頃から日常会話や散歩時に希望や意向を把握し、できるだけ沿った支援を行い職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の関わりにより、ご家族ともお話を重ね信頼関係をつくること、買い物や理美容の好みに合った援助をし、毎日の記録に残すこと等で把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の流れの中で各職員が日々傾聴し様々な可能性を 知り申し送りや記録にして把握に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望、ご家族の意見をお聞きし職員からの情報などを元に、計画作成者が介護計画を作成し、毎日の様子を職員が記録し、担当職員とともに見直しを必要な期間を設け計画の変更しています。作成者よりケアプランの研修もしています。	入居時に、本人や家族から意見を書き留め、日頃の介護日誌から介護計画を作成し、3ヶ月ごとに計画を見直している。利用者の状況や家族の要望に応じてその都度サービス内容を検討し日々の支援につとめている。家族に書面で連絡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとの、個別チェックリストを作成し、記録にも残し、より細かな情報を得、情報が共有できるようにし、介護計画に活かすような記録も出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族よりのご希望により他のサービスの提案、ボランティアの受け入れなど対応も考慮しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人、ご家族との会話などにより、これまでのなじみの関係、希望を聞き取り、なじみの関係を継続できるよう支援しています。また地域の方の協力もお願いしています。昨年度よりは感染防止を優先しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医を尊重し、受診時の情報提供をし、ご家族の状況も考慮し受診の支援をしています。	利用者が納得のうえ、月2回協力医の訪問診療(内科ほか)を受診している。その他3名の利用者が精神科を外来受診しており、家族が同行している。調査機関の家族アンケートでは、健康・医療・安全面での心配が全回答とも「全くない」「あまりない」の2項目(同数)のみであり、事業所の医療ケア等の充実ぶりを反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の生活の中での変化や、異変に気づく継続した観察や申し送りをし、かかりつけ医、看護師に報告相談し、健康管理、受診の対応をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族、病院関係者に情報を提供し、ご家族と共に面談を繰り返し持ち、早期退院または他施設への受け入れなどを含め対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と共に主治医と話し合い、今後の治療に対するご希望を聞き取り、医療との連携を図り、職員間で、必要なケアのカンファレンスをもち支援しています。	入居時に指針に基づき、本人・家族等に説明のうえ同意を取り付け、重度化の際には、主治医が家族等へ説明を行い、同意が得られれば看取りに入る。職員、看護師、管理者等が連携のうえ最後までケアにあたっている。職員研修は、必要に応じ都度実施している。直近の5年間で四人の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応はその時々により指導を行い事故を起こさないような取り組みもしています。予測し、動けるように指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域自治会の協力をお願いしつつ、年2回の消防訓練を行い避難経路の確認 備蓄品、災害用品などの確認を全員が把握し、近隣施設との連絡を取りあっている。又地域の方の避難場所の提供も行っている。	火災を最も警戒すべき災害と認識し、夜間想定を含め年2回の訓練を実施している。直近の訓練は8月に実施し全利用者が参加した。地域の訓練にも参加し、近隣住民と良い関係を築き、いざという時には相互に協力できる関係にある。消防署の立会い訓練も昨年6月に実施済みで、災害に万全の体制を敷いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個人の部屋とし、立ち入りなど気をつけ排泄、食事摂取時、入浴時も職員全員が配慮した声掛け・観察を行っています。入職時の個人情報の教育も行っていきます。ご本人の不安軽減の為 お部屋に居られない時は施錠もしています	個人情報・接遇マニュアルを整備し、新入職研修や日常ケアにて職員どうしで再確認している。具体的には、さりげないトイレ誘導、排泄・入浴時のプライバシー確保、入室時の本人への声かけ、苗字での呼びかけを基本とし同姓の場合には名前で呼びかけるなど、利用者の人格やほこりを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のリズムを考慮し、声掛けや働きかけ方を個人に合わせて行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体の流れを考え、ご本人の希望を優先し、できる部分は個別の対応をし、時間配分も変えて行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り 沿うように行っています。毎日の着替えもご本人の希望に沿って選んでいただいています。化粧品などの購入にも援助しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に調理作業をする事でコミュニケーションを取り、役割を持っていただく機会を作っている。又自分達で作った達成感を感じて頂き、入居者同士でお世話しながらと言う形も出来ています。	献立・食材搬入は給食業者が、調理等は職員が中心となり、利用者も味見・盛付・後片付け・洗い物など一緒に楽しく行っている。また、菜園で利用者が種まきから育てた収穫物を調理に利用し、達成感も同時に味わっている。人気メニューは、みんな一緒に参加できる料理で、お造り、なべ物やお好み焼などがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がメニューを立てた食材を注文し、摂取量、水分量の記録をとり、確認しています。体調や嚥下状態、嗜好による食物の形態、摂取時間など考慮し提供しています。体重の増減や検査結果で食事量も考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人に合わせ、洗面所での歯磨き、口腔の洗浄をし、定期的な義歯の洗浄をしています。歯の欠損や異常の観察をし個人にあった歯ブラシ、スポンジを使い必要時 歯科医の往診も依頼しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンにあわせ 声掛けや、職員による誘導を行っています。パットの種類、下着の選択など個人にあった排泄環境を提供できるよう又 汚染時の個人を尊重した取り組みも行っていきます。	日中、利用者の大半は、リハパン(リハビリパンツ)で、布パン(布パンツ)は1割のみである。夜間は、見回りトイレ誘導するほか、起きるのがつらい利用者にはパッド交換で対応している。入居後、リハパンから布パンに改善した例はないが、排泄パターン表を参考に声掛けをし、排泄の現状維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・水分・温シップなどの方法や腹圧のかけ方の声掛けで、規則的な便秘予防を行い、介護チェック表による排泄状態の確認をおこなっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な回数、昼間と設定していますがご本人の意思を尊重し入っていただいています。ご本人の状態にもよりますが、職員が少ない時間の入浴は危険を伴うこともあり薦めてはしません。	入浴は、週3回実施している。菜園での作業後に入浴する利用者もいる。入浴を嫌がる利用者には、日にちや時間を変えて対応している。一般浴槽であるが、車椅子の利用者には二人介助でシャワー浴で対応している。入浴を楽しむ工夫としては、季節ごとのゆず湯やしょうぶ湯のほか、会話を楽しむようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ休息をとっていただいています。夜間に睡眠が取れるように昼間の活動に考慮する場合があります。又消灯時間は設けずそれぞれの時間をすごして頂けるよう、室温にも気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個人のファイルの中に入れ、服薬確認のチェックをしています。用法、量、種類の変更時は書き出し、それによる変化も記録に残しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個人の得意なことを生かし、役割を持っていただいています。調理の準備、生け花、畑仕事、歌や又趣味のボランティアの協力も得ています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・散歩・美容院などご希望に沿い支援しています。又季節ごとに外出も提案しています。昨年度より外出は控えています。	コロナ禍で、人の往来が多い日中の外出は困難なため、利用者の楽しみは庭での外気浴等に限定されている。そんな中でも、人の往来が少ない時間を見計らい週一回少人数でお宮へ30分程度の散歩やポストに投函する利用者が職員の同行で出かける事もある。なお、従来行っていた車を使っての遠出は中断している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員とご家族の判断で本人が持ち、使っていただくこともしています。また事務所で預かる事も出来ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上電話は使っています又てがみのやり取りにも制限は設けず、季節のお手紙など書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は柔らかな照明と臭気を消すように気をつけ窓、ベランダも開放し外気を感じていただき、外の風景、近隣の人の姿、も見ていただけるようにしています。又ユニットも自由に行き来していただいています。現在ユニット間の行き来は中止しています。	2ユニットを一直線に繋げた平屋で、空調や照明を季節や時間の流れにあわせ、自然風や日光を取入れ、利用者にとり清潔で快適な環境を保つよう努めている。共用部の壁には、夏祭りの風情でかき氷やスイカの絵やちょうちんを飾ったり、誕生会の写真や習字の作品を掲示し、利用者の暮らしぶりを反映している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビングでは数人の方とまたは職員と話せる場所があり、離れた場所にも椅子を置き人の声を聞きながら、一人の時間も持っていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に荷物の制限はせず、ご希望に応じ椅子、テーブル、などおいて頂いています。	居室には、ベット、クローゼット、エアコン、防災カーテン、照明や洗面所等が設置され、暮らしには困らない。利用者は、使い馴れたテレビ、ラジオ、タンス、仏壇のほか好みの写真や飾り物を持ち込み、個性ある部屋にしている。居室は、それぞれ花と木の名前がつけられているが、必要に応じ利用者のネームプレートを付けることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯機、掃除機、や調理器具、冷蔵庫や電気器具も見守れ、一人でも使っていただける様にはしています。		